

令和3年2月18日

島本町立第二小学校  
校長 辻本 堅二 様

島本町立第二小学校学校協議会  
会 長 坂 東 俊 枝

## 令和3年度の学校教育活動への提言

令和2年度の5回の学校協議会を踏まえ、下記のとおり取りまとめましたのでお取り計らいを願います。

### 記

私たちは、第二小学校学校協議会委員として、子どもたちの「学びと育ち」に関わり、学校の教育活動について提言できることに大きな意義を感じています。

子どもたちの健やかな成長のためには、学習環境が大変重要であり、施設面はもちろん、周りの大人たちの働きかけが不可欠です。そのためにも、学校の施設面及び人的な環境整備を行いつつ、教職員と保護者、そして学校に関わる地域の方の協働が必要です。

子どもたちに「知」「徳」「体」とバランスの取れた力、すなわち『生きる力』を育むことは学校教育の目標でもあります。子どもたちが意欲をもって学び、豊かな心を育み、心身ともに健やかな体に育つよう全教職員が力を合わせ、意図的・計画的かつ組織的に教育課程を実施し、質の高い教育活動を創造されることが望まれます。そして、学校を拠点としながら、保護者、地域の信頼と協働の上に立ち、実践されることで、子どもたちに『確かな学力・豊かな心・健やかな体』を育むことができると考えます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、様々な点で平時と異なり、手探りの対応をせざるをえない大変な年度であったと思いますが、相応の対策をとっての学校経営は評価に値すると思います。また、そういう時だったからこそ、新たな考えが生まれ、実行し、見えてきたこともあると思います。その思いと行動が、今後の学校生活に反映されることを願います。

#### ①授業づくり、確かな学力の向上

「生きる力」をつけることを目標にしているようですが、生きる力とは何であるかを常に学校で考え、共通認識して進めたいと思います。例えば、自分で考え、自分の言葉で自分の意見をしっかり表現できる力、自らが自分の課題を見つけられる力はとても大切だと思います。そのためには、論理的思考力や自分を客観視できる力を育む授業を進めてほしいと願います。

参観等で見る学校の様子は、とても落ち着いています。そして、どのクラスも落ち着いて前向きに授業に取り組んでいる様子が見え、学年を超えて、あるいは、小

中でリモートでの交流もできたという喜ばしい報告がありました。今後の社会の傾向として、リモートでのつながりを否定することはできず、むしろ、増えていくと思いますが、海外とのリモートでの交流も過去にありましたので、今後、発展的な交流にリモートがうまく利用できればいいと考えます。

英語にも力を入れている様子は伝わっています。先生方も、英語を意識した教室の工夫や授業の工夫をされているようです。ただし、あくまでも、国語の力をおろそかにしないことは忘れないで指導をお願いします。作文力や、ディベートを取り入れた授業も、コロナの状況が許せば実施していただきたいと思います。ディベートは論理的思考を養うことにも役立ちます。

また、読書をする生徒のパーセンテージは高く、学校図書館や学級文庫も充実していると見受けられましたが、国語力の増強だけでなく、いじめ撲滅や人の気持ちを思いやるための想像力を培う点でも、読書習慣をつけることに、さらに力を入れてほしいと思います。

タブレットの導入など、ICT 教育については、他に先んじて実施されているようで、学校教育自己診断においても、生徒も先生も保護者も一定の評価をいただいていることが見受けられ、今後に期待しています。ただし、ICT 教育の功と罪にも配慮を怠ることなく、学校でもっとも重要視しなくてはならない「人と人のつながりを学ぶ場」や「集団での人と人の関わり方を学ぶ場」という点では、今まで以上に心を込めた学級運営をしていただきたいと思います。今後は、AI がどんどん取り入れられていくと予想できますが、筆記用具を手にして書く事、描く事が衰退していかないように配慮してほしいと思います。

## ②生活指導、学校安全、心の教育の充実

学校教育自己診断で、自尊意識について、子どもの回答では、若干自信がないような回答が多いのは気になるころではありますが、反対に、過剰な自己肯定評価よりも、今後、伸びていく力の源（劣等感がバネになる点）になる場合もあろうかと思えます。ただし、設問の言葉の選び方によっては、各自とらえ方が違う点がありますから、思ったような回答が求められなかったことを否定できないかとも思いました。優しい言葉での設問ではありますが、捉え方で判断しにくい言葉での設問かもしれません。実際には、もっと多くの子どもが、自分に自信をもって、学校生活を送っているのではと感じるというのが、参観を通しての率直な感想です。

子どもが、学校の中でも外でも、ひとつ「自信」をもつ何かを見つけられるような褒め方は、先生も保護者も学級運営の中でも、特に心がけていただきたいと思います。今でも実行していただいていると理解していますが、様々な場面で、子どもを評価し、褒めていくことを、ぜひ続けていただきたいと思います。

子どもは、大人が思っている以上に柔軟で適応力もあります。コロナウイルス感染症予防対策をいつまで続けるのかは、社会全般の状況判断に委ねる点はありますが、子どもの目線で、こんな行事ならできるのでは？などを子どもに企画させてみるなど、こ

の難局を逆手に取って、子どもの能力を導き出す工夫をお願いします。

学校側の発言に、「学校に行くのが楽しいを100%にしたい」という、あたたかく希望に満ちた目標がありました。実現に向けて、先生方一体となって工夫をしていただきたいと思います。今回の長期休校で、学校に行けることがこんなにありがたく、楽しく、落ち着けるのだと理解できた子どもたちも多いようだとの観察は嬉しいことのひとつです。

どの学年の子どもたちも、人間関係を心地よくしたいとのあらわれが、学校教育自己診断結果から読みとれました。教師や保護者の日頃の姿勢も影響していることを意識して、いじめた、いじめられた、の前にあるものを考え、子どもたちに示し、伝えてほしいと思います。また、学校として、過去の災害や事件などを風化させることなく例年伝えてくださる話題は、とても大事であると感じています。

### ③学校組織の向上と教育環境の整備

学校内には、教室以外の各所に、マンネリ化せず、既存のものから新しくされた掲示物も見られ、工夫を感じられました。

5年後には、35人学級になることが決定したため、移行措置として様々な指示が府・町教育委員会からあることと思いますが、急激な変化ではなく、システムが順次移行できるならば一番ありがたいと思います。もっとも混乱のない方法（一番に子どもの負担が少ない、次に今でも負担の多い先生方への負担が少ないことが目標）での少人数学級への移行をお願いしたいと思います。なお、35人学級がベストではないという認識は、これからももっておいだきたいと思います。35人学級が定着した段階で、その成果をきちんと評価し、次のステップへの要求を続けていだきたいと思います。例えば、30人学級を目標にするなどを念頭に置いての移行をしていだいて、次の少人数の段階に、すみやかにステップ・アップできるような対応を進めていだきたいと思います。

また、今後5年間は、現行の40人学級が続くことを考えて、その間も、できるだけ少人数での授業が可能になるような工夫をお願いしたいと思います。現状、学校は独自の対応で少人数になるような工夫をしていだいているようですので、継続した実施をお願いします。

### ④地域、保護者との連携

校舎全般の掲示や、学校HPなどは、工夫された点が増えており、子どもにも保護者にもいいことだと感心しながら拝見しています。今後も、工夫のある掲示やHPでの発信の工夫を、学校、学級（学年）ともに継続していだきたいと思います。

保護者が、学校に過度に期待する、あるいは、学校での指導を求めすぎる点も散見されているようで「学校でできること」「家庭でできること」「学校でしなくてはならないこと」「家庭でしなくてはならないこと」などの観点について、保護者への発信をもう少し頻繁に行っていてもいいのではと思います。家庭内での親子の関わりも、表面的

で、ぶつからないようにということ、求める社会になっているとの保護者の見方も、現代社会をつぶさに語っていると納得できることでしたが、よりよい親子関係にも学校は一役買うことができることを忘れないでいただきたいと思います。

保護者の参観が思うようにできなかった中、学校協議会は参観を設定していただき、ありのままの授業を見せていただいたことに感謝します。参観については、時間と人数を制限する、私語を慎むことを願います、申込み制にするなどの付加的対策をとった上で、通常参観回数に近い実施ができればいいと考えます。学級懇談も同様です。

しかし、当面、参観や学級懇談をしないほうが安心・安全との方向になるようでしたら、今まで以上に、学級・学年・学校からの連絡を頻繁にする、あるいは、保護者の不安に先んじての情報発信を実施するなどして、保護者の不安を払拭する工夫をお願いします。保護者から、子どもや学校の様子を知りたいという意見もありましたが、HPの活用も1つ、子どもとの会話の話題になると思います。

#### ⑤その他

第二小学校の特色や抱える課題を、保護者、教職員、地域の方々が共有した上で、児童と関わっていることで、児童を守り育てる環境が生まれてくると思います。しかし、昨今、教職員と保護者の関係性の変化、教職員の仕事に対する意識の差、保護者が学校に求める内容等から、教育活動の意義が共有できていないことがあるのではないかと思います。学校において、子どもたちは主役であり、児童だけでなく、その保護者、教職員もが学び、育つ場であることを再確認できればと思います。特に、本年度は、誰もが気持ちに余裕のない生活を強いられたことと思います。そんな中でも、児童が安定した学校教育を受け、心身ともに育っていける環境の整備が必要です。学校においては、「児童のためにどうしていけばよいか」という視点で考え、様々な立場の方が連携していける土台作りをぜひ進めていただきたいです。

校長の「中長期的な学校教育の捉え直し」については、時代の変化をつぶさに感知し、学校教育の変革につなげていく素晴らしい展望であると感じています。この目標は、30年後を見通した目標であるとお話もうかがい、今、二小にいる子どもたちが、社会の中核で活躍する時代を見越した展望であることに感心もし、じっくり拝見いたしました。先生方とも共有された認識であるとのこと、今回のコロナ騒動も変わらず、時代を読み取る力や、風を捕える力は、指導、もしくは学校運営をする立場で必要なだけでなく、これからの社会を生きる子どもにこそ、必要で、育ててほしい力でもあろうかと思えます。社会の変化に臨機応変に対応できるセンスをもった小学生を、ぜひ育ててほしいと思います。

本提言に対しての学校としての具体的な方策、教育委員会からの回答などについて、年度初めに説明をいただければありがたいです。